『語学教育研究論叢』第 36 号

日本語と中国語における否定疑問文の意味機能に関する対照研究

黄　偉

A Contrastive Study on Semantic Functions of Negative Questions in Japanese and Chinese

HUANG Wei

摘要

本文主要对日语否定疑问句和汉语否定疑问句的不同功能特征进行了考察和分析。分析发现日语否定疑问句之所以具有诱导功能和礼貌用法，是因为它用否定形式来预设否定命题的存在，给对方留有余地，从而来委婉表达说话人的意愿。与之相对，汉语否定疑问句不具有这种诱导功能和礼貌用法，文章对其原因进行了分析和总结。另外，文章还对在某种意义上与日语否定疑问句相对应的汉语肯定疑问句、正反疑问句等进行了考察和分析。

キーワード　否定疑問文，意味機能，肯定疑問文，反復疑問文，対照研究

1. はじめに

中国人は日本語の学習が進むにつれ、中国人より日本人の方が否定疑問文をよく使うことにしばしば気づかされる。日本語の否定疑問文は日本語の特

徴的な表現であり、日本人の言語心理、感情、発想と深く関係しており、中国語の否定疑問文とは用法上大きな違いがある。例えば、次のような例がある。

(1) a. 北京ダックでも食べませんか。　　(《综合日语》第一册　p.187)

b. 咱们不去吃北京烤鸭吗?

(1a) は (1b) と形式的には対応しているが、意味的には若干の違いが見られる。

また、日本語の否定疑問文と中国語の否定疑問文はそれぞれどのような特徴があるのだろうか。これらの異なる特徴の背景にあるのは、どのような現象であろうか。これまで、日本語の否定疑問文と中国語の否定疑問文についての研究がなされてきたが、両者についての対照研究はそれほど多くはないようである。本稿では、従来の研究を参考に、以上の問題について分析を試み、さらに日中両国の言語の学習と教育に少しでも役立てられればと思う。

2. 先行研究と本稿の立場

これまで、日本語の否定疑問文の用法や機能についての先行研究として大西 (1989)、井上優・黄麗華 (1996)、相原 (2008) などが挙げられる。これらの研究では、日本語が勧誘、依頼の意味を表す場合、肯定疑問文よりも、否定疑問文のほうがより丁寧であると指摘している。しかし、このような意味機能がどこから来たのか、なぜ否定形式で表現するのか。これまでの研究では、これらの問題についての論述はまだはっきりしていないので、さらに明らかにする必要がある。

一方、中国語の否定疑問文については、吕叔湘 (1992)、邵敬敏 (1996)、丁雪环 (2010)、张晓涛 (2011) などが挙げられるが、何れも中国語の否定疑問文が否定を前提に、聞き手への質問であることを示している。

このように、これまで日本語の否定疑問文と中国語の否定疑問文についての研究がそれぞれみられるが、両者に関する対照研究はあまりないようである。本論文はそれらの先行研究を参考にして、日本語と中国語における否定

疑問文の異なる意味機能の特徴と発生要因について分析し、日本語の否定疑問文に対応する中国語の表現を考察する。

3. 日本語の否定疑問文の意味機能について

上述のように、日本語の否定疑問文は、単なる否定命題に対する質問ではなく、特に、勧誘、依頼の意味を表す場合、否定疑問文は肯定疑問文に比べて、より婉曲で丁寧に見える。これまでの研究では、否定疑問文の意味機能についての論述はまだはっきりしていないので、本稿ではこれらの問題について明らかにしてみようと考えている。簡単に言うと、日本語の否定疑問文は、このような機能を持つのは、Lakoff（1977）の 3 つのマナー基準の 2 つ（Formality, Hesitancy）で説明することができると思う。Formality, Hesitancy の 2 用例は次のようなものである。

⑵ a. Formality: don’t impose/remain aloof（人に押し付けない）

b. Hesitancy: give the addressee his options（相手に余地を与える）[1)]

人に押し付けず、相手に余地を与えるという効果を達成するために、日本語では、優先的に選択するのは、否定形式によってこのような否定命題の存在する可能性を仮定し、これによって聞き手を誘導し、聞き手に返答を期待するという気持ちがみられる。このような仮説の否定命題の誘導作用により、相手へのストレスを軽減させることが可能になる。これは相手の面子を配慮する言語行為であり、上記の「押しつけない」、「相手に余地を与える」というマナー基準は、日常生活でも一般に観察される現象である。

次に、日本語の否定疑問文のいくつかの主な用法を挙げ、肯定疑問文と比較しながら、その意味機能の特徴を分析し、発生要因について述べる。便宜上、肯定命題を P とし、否定命題を－P とする。

3.1 相手に何かを訊ねる意味を表す場合

⑶ a. お怪我はありませんか。

b. ？お怪我はありますか。

聞き手が例えば、自転車に乗って転んでしまった時、話し手は（3a）を使って聞き手に訊ねることができる。相手がけがをしなかったり、けがをしたりしないことを想定して、「けがをしていない」という返答を期待する気持ちを表す。このように否定疑問文によって訊ねる表現は、肯定疑問文に比べて、聞き手に対して配慮されたもので、より丁寧な語感をもつであろう。

一方、（3b）のように肯定疑問文の場合、Pの真偽を訊ねたり、確認したりするという意味が先行してしまい、その結果、発話の誘導機能にしても、丁寧さにしても、否定疑問文のような表現効果を生み出さない。したがって、婉曲で丁寧に相手に訊ねる場合には、否定疑問文を優先的に用いることになる。

3.2　相手に何かを依頼する意味を表す場合

聞き手に対する丁寧さによって、話し手は、否定形式で－Pが存在する可能性を想定して、相手の発話に対する負担を減らすことになる。日本語では、相手に何かを頼むとき、特に相手の気持ちを考えることが多い。相手が発話を受け入れやすく、相手に必要以上の迷惑をかけないようにしなければならない。したがって、その依頼内容は、肯定形式で直接的に表現するのではなく、間接的に否定疑問文で表すことが多い。例えば、以下の例はこのような用法である。

(4) a. その本を貸していただけませんか。　（《综合日语》第二册　p.349）
　　b. その本を貸していただけますか。

(5) a. 先生、すみませんが、留学のための推薦状を書いていただけませんか。　（《综合日语》第三册　p.217）
　　b. 先生、すみませんが、留学のための推薦状を書いていただけますか。

一方、肯定疑問文を使用する場合は、直接に聞き手に要求を出し、聞き手の肯定的な返答を期待し、－Pの可能性を想定することはほとんどない。その結果、あまりにも直截的で、相手に余地を与える表現ではなくなる。この

ような場合、肯定疑問文を使用しても文法的に間違っているとは言えないが、コミュニケーションのマナー基準から見ると（4b）は明らかに（4a）ほどふさわしくはない。（4b）が使用されるのは、予め、結果が十分に期待されているという話し手の意識が前面に出て、その結果、（4a）に比べて、丁寧さが相対的に低下することになる。

3.3　勧誘の意味を表す場合

聞き手に対する丁寧さから、一般的には否定形式で婉曲的に勧誘して何かをもちかける言語行為はマナー基準に合っている。例えば、（6a）（7a）のような例である。

⑹ a. 一緒に北海公園に行きませんか。　（《综合日语》第一册　p.187）

b. 一緒に北海公園に行きますか。

⑺ a. ここで写真を撮りませんか。　（《综合日语》第一册　p.187）

b. ここで写真を撮りますか。

一般的には、新情報を話題にして、聞き手を勧誘する場合、相手の意思を確認する必要があるので、婉曲的な方法で訊ねる必要がある。日本語の否定疑問文は、－P が存在する可能性を想定することによって、話し手が相手に何かをしてほしいという期待を直接肯定形で聞き手に押し付けないようにする必要がある。これも、「人に押しつけない」、「相手に余地を与える」という裁量判断によるものである。逆に、肯定疑問文という形式を用いると、ストレートな勧誘になってしまい、相手には選択の余地がなく、唐突な感じを与えてしまうことになる。（6b）は（6a）の丁寧度において、いちじるしく低下する。一緒に北海公園に行くかどうかという質問としては、適性であるが、勧誘の姿勢は弱くなる。否定形式とは異なり、P への問い合わせや確認だけにとどまっている。この点は否定疑問文にみられる勧誘の使い方と大きく異なる点である。

3.4　まとめ

以上の観察と分析によって、日本語では、相手の応答を求める場合には、否定疑問文は肯定疑問文に比べて、より丁寧で、相手を配慮した表現である。これは、日本語では否定形式によって、－Pが存在する可能性を想定し、これによって話し手が主観的に認められた肯定命題を相手に強く押しつけることを回避する姿勢を明らかにし、また、相手に余地を与えることで、Lakoff（1977）のあげたマナー基準に沿う表現となっている。

4. 中国語の否定疑問文の意味機能について

一方、中国語の否定疑問文は日本語の否定疑問文の持つような誘導機能と丁寧さがあるのだろうか。次に、日本語の否定疑問文を中国語の否定疑問文に直訳し、その異なる特徴を考察し、その発生原因を分析してみたい。

4.1　相手に何かを訪ねる意味を表す場合

（8）a. お怪我はありませんか。

b. ？没摔伤吗?

（8b）は（8a）の中国語の直訳であり、意味としては、話し手が聞き手の“没摔伤”（けがをしていない）という状況に対する質疑であり、聞き手からの明確な回答を求めようとしている。そのため、形式的には否定疑問文であり、文法的に間違いはないが、（8b）はこのような文脈では適当ではない。それは、仮に－Pが存在することを前提として、疑問を呈して聞き手に答えを求めるという意味を表すだけにとどまっている。中国語では、このような－Pに対する質問は、一般的に話し手が－Pの兆候や情報を得た後、その真偽を確認するために使う表現である。つまり、この否定疑問文も－Pに対する疑問であるが、このような－Pの場合は、主に話し手が観察して得た兆候や情報によって、－Pという情報について“吗”で疑問を呈し、その機能は－Pの事態に疑問を加えるものである。この表現は、相手に対して配慮を欠いた表現であると考えられる。つまり、Lakoff（1977）のマナー基準に反する言

語行為となる[2)]。そのため、中国語の否定疑問文は、日本語の否定疑問文に反して、時に、かえってマナー違反をまねく言語行為となる危険性をはらむことになる。

4.2　相手に何かを依頼する意味を表す場合

⑼ a. 私にこの本を貸していただけませんか。

b. 你不能借这本书给我吗?

（9b）は中国語の否定疑問文であり、形式的には（9a）に対応しているが、その意味機能には、日本語の遠慮や丁寧な感じが失われ、むしろ失礼な印象を与える。なぜ同じ否定疑問文なのに、中国語には逆に失礼な感じが生ずるのだろうか。これまで述べたように、中国語の否定疑問文は 1 つの－P に対する質問である。日本語と異なり、中国語のこの－P は話し手の想定ではなく、話し手が様々な兆しや兆候を通して得られた確かな情報である。その上で、話し手がこの否定情報に基づいて、聞き手に疑問助詞“吗”を用いて疑問を表し、この－P の質問に関する答えを求めるもので、このような行為は結果的には聞き手に対する直接的な問いかけとなり、マナー準則に反することになる。

4.3　勧誘の意味を表す場合

相手に何かを依頼する意味を表すほか、人を勧誘することを表すときには、中国語では、否定疑問文はほとんど使われない。

⑽ a. 一緒にスキーに行きませんか。

b. ？咱们不去滑雪吗?

（10b）は（10a）の中国語の直訳であるが、場面上、不自然である。なぜかというと、それらは－P を仮説することを前提に、聞き手に“咱们不去滑雪”（一緒にスキーに行かない）という仮説に対する回答を聞いたり、確認したりすることで、日本語の否定疑問文のように間接的で、婉曲的に聞き手を勧誘することにはならないからである。

4.4　まとめ

以上では、中国語の否定疑問文の一部（例 8、例 9、例 10）について分析した。その中で例 9 と例 10 は聞き手への依頼と勧誘の表現である。この表現は、聞き手の面子に直接かかわるものである。したがって、相手の心理的負担を減らすために、特に相手に余地を与え、マナー基準に注意を払う必要がある。一方、中国語ではこのような礼儀を尊重するための意図を、否定疑問文で実現することはできない。中国語の否定疑問文は、日本語とは異なり、話し手の－P に対する兆候に疑問を示し、疑いを呈する際の疑問形式であることになる。疑問を表したり、あるいは反問を表したりして、人の面子を配慮する言語行為とはなりえない。一方、日本語の否定疑問文では、否定命題は、ただ一つの推測であり、話し手が何の兆候も得られない場合の想定された情報である。－P に対して疑問がなく、－P はただ一つの仮説である。否定形式で－P が存在する可能性を想定して、相手により多くの余地を与える。こうした違いによって、中国語と日本語における否定疑問文においては丁寧度が異なる。

5.　日本語の否定疑問文に対応する中国語の表現方法

以上の分析を通じて、中国語の否定疑問文の語用機能が日本語の否定疑問文と異なっていることを知ることができる。しかし、筆者は北京日本学研究センターが開発した「中日対訳コーパス」(2003）を利用して、いくつかの対応する翻訳の例文を検索し、ある程度日本語の否定疑問文に対応している文形式が肯定疑問文、反復疑問文及びその他の文形式（例えば、“～好吗？”“～好吧？”などの付加的質問文）であることが分かった。以下では主に肯定疑問文、反復疑問文が日本語の否定疑問文に対応する場合を検討する。

5.1　肯定疑問文

中国語の肯定疑問文は、ある場合には、日本語の否定疑問文に対応することができるが、厳密に言えば、体系的な対応ではない。中国語の肯定疑問文

は、日本語の否定疑問文が持つ誘導機能がみられない。誘導機能とは、形式的にPに対する質問であるが、場合によって何の前提もなく質問することができる機能をさす。つまり、命題が成立したかどうかを訊ねる質問である[3)]。例えば、以下の例（11a）は、一般的にこの料理がおいしいかどうか分からないという前提で質問する状況である。

⑾ a. 这个菜好吃吗?

b. この料理、おいしくありませんか。

（11a）のような肯定疑問文は日本語の否定疑問文のような誘導機能はない。－Pが存在する可能性に関連しておらず、相手に肯定的な返答を期待したり、要求したりすることはなく、単なる質問にすぎない。この点については、日本語の肯定疑問文も同じである[4)]。

聞き手に勧誘、依頼をするときには、肯定疑問文は用いられ、話し手に肯定的な返答を求める気持ちを表す。この点は、日本語の肯定疑問文に似ているが、丁寧さについては、日本語の肯定疑問文と同じように、日本語の否定疑問文には及ばない。例えば、（12a）はこのような例である。

⑿ a. 你能借点钱给我吗?

b. 你借点钱给我吗?

（12a）は聞き手に依頼する場合に用いられるが、日本語の否定疑問文の語用機能と同じではない。中国語では、このような依頼の意味と比較的丁寧なニュアンスは、肯定疑問文自体がもたらしたものではなく、“能”が大きな役割を果たしているものである。“能”と“吗”が共起することによって、“能～吗?”という形式で相手の許可を求めることを表し、丁寧な言語行為である。“能”をのぞくと、依頼や丁寧なニュアンスが消え、少なくとも日本語の否定疑問文に対応することはできなくなる[5)]。例えば、（12b）は必ずしも、話し手が聞き手に対する依頼とは限らず、何の前提もなくPの真偽を訊ねたり、確認したりすることも可能である。したがって、婉曲的に聞き手を勧誘したり、依頼をしたりする場合、相手の許可を求める“能～吗?”または他の付加的質問を用いるほうがより適当である。以下の例文も「中日対訳

コーパス」によるもので、日本語の否定疑問文が“能～吗？”に対応する例である。

⑿ a. 面白そうだから、行ってみませんか。　（青春の蹉跌）

b. 听说很有意思，你能去吗?

5.2　反復疑問文

以下では、反復疑問文と日本語の否定疑問文の対応についてみてみよう。とりあえず、勧誘、請求以外の用例を観察する。

⒁ a. この料理、おいしくありませんか。

b. 这个菜好吃不好吃?

中国語では、反復疑問文は肯定疑問文と同様に何の前提もなく質問することができる。上記の例（14b）は、この料理がおいしいかどうか分からないという前提で質問している状況である[6)]。

また、勧誘や要請の文の環境にも反復疑問文が用いられる。例えば、以下の例（15b）、（16b）はそれぞれ（15a）（16a）の訳である。

⒂ a. 私にこの本を貸していただけませんか？

b. 你能不能借这本书给我?

⒃ a. 一緒にスキーに行きませんか？

b. 咱们去不去滑雪?

このほかにも、「中日対訳コーパス」によって、日本語の否定疑問文と中国語の反復疑問文が実際に対応する例が見られる。

⒄ a. すみませんが、首の、耳の後ろの辺を、掻いてもらえませんか。（砂の女）

b. 对不起，能不能替我挠一挠头和耳朵后边?

5.3　まとめ

以上の分析によって、反復疑問文がPを想定しておらず、－Pの想定もしていない中立的な質問の仕方であることが判明した。つまり、聞き手にPと

－P を与え、相手に選択させたり、決めさせたりすることになる。これは、聞き手の答えを誘導する表現であり、この点では日本語の否定疑問文に近い。それに対して、肯定疑問文はこのような聞き手に選択させる機能がない。

反復疑問文は聞き手に選択させ、相手に余裕を与えてくれるように見えるが、両者の間で必ず一つを選ぶ必要があるので、あまり婉曲ではないと言えよう。日本語の反復疑問文はむしろ「行くか行かないか」という詰問的な語調が感じられ、中国語のように広くは用いられない。

6. 結び

本稿は主に日本語の疑問文のもつ意味機能、特に誘導機能と丁寧な使い方について議論した。また、形式的に対応する中国語の否定疑問文も考察し、形式上対応していない肯定疑問文と反復疑問文も分析した。その結論は次のようにまとめられる。

① 日本語の否定疑問文は、否定表現の形で否定命題の存在を仮定し、話し手の意思を婉曲的に表現し、相手に余地と心理距離感を与えるため、勧誘機能と丁寧な問い掛けの意味を持つ。

② 中国語の否定疑問文は、日本語と異なり、その否定命題は仮説ではなく、観察した兆候や情報で、その上で、聞き手に質疑を行う表現である。そのため、丁寧度が低下し、失礼な印象を与える表現になりやすい。

③ 中国語の肯定疑問文や反復疑問文は一部日本語の否定疑問文に対応するが、日本語の否定疑問文のような手寧さを表すことは保証されない。

今後の課題としては、筆者は日本語と中国語における二重否定疑問文に関して対照研究を続けていきたい。

謝辞

本稿は 2018 年 6 月 18 日、大東文化大学語学教育研究所の研究例会で発表した研究内容をまとめたものである。本稿の作成に際して、田中寛先生から貴重なご教示を賜ったことに心から深く感謝申し上げます。さらに、本稿の

査読にあたり、有益なコメントをしてくださった先生方にお礼を申し上げます。

注

1）もう一点は「Make A feel good―be friendly」であるとしているが、ここでは触れない。

2）実は、中国語の否定疑問文は、往々にして反問文になりやすい。したがって、マナー準則では、相手の言葉を尊重する行為ではない。

3）袁毓林（1993）は“肯定＋吗？”という質問は、聞かれたことには何も把握しておらず、「疑問」が「信頼」よりも大きい質問であると指摘している。

4）井上・黄（1996）は、中国語と日本語の肯定疑問文は、何れも単にPの真偽に疑問を表す文であると指摘している。

5）日本語には“能”に相当する「いただける」があるが、その丁寧なニュアンスは、主に否定疑問文によって表現される。

6）吕叔湘（1992）は肯定疑問文が疑われる傾向にあると述べ、反復疑問文が事実関係を求める質問であると指摘している。

参考文献（年代順）

日本語

水谷信子（1985）『日英比較話し言葉W文法』，くろしお出版

大西智之（1989）「中国語と日本語の否定疑問文」，『中国語学』236，日本中国語学会

田野村忠温（1991）「疑問文における肯定と否定」，『国語学』164，国語学会

井上優・黄麗華（1996）「日本語と中国語の真偽疑問文」，『国語学』184集，国語学会

相原宏口子（2008）「依頼表現の日中対照研究一相手に応じた表現選択」，『言語情報科学』6，東京大学大学院総合文化研究科

中国語

吕叔湘（1992）〈通过对比语法研究〉，《语言教学与研究》第2期

袁毓林（1993）〈正反问句及相关的类型学参项〉，《中国语文》第2期

邵敬敏（1996）《现代汉语疑问句研究》，华东师范大学出版社

丁雪环（2010）《汉语疑问句作为第二语言习得的研究》，中国社会科学出版社

张晓涛（2011）《疑问和否定的相通性及构式整合研究》，中国社会科学出版社

英語

Lakoff, R. T. (1977) What You Can Do with Words: Politeness, Pragmatics and Performatives. In *Proceedings of the Texas Conference on Performatives, Presuppositions and Implicatures*, ed. Rogers, R. Wall, R. & Murphy, J. Arlington, Va. I Center for Applied Linguistics.

用例出典：

《综合日语》第一册、《综合日语》第二册、《综合日语》第三册（いずれも彭广陆・守屋三千代編、北京大学出版社、2005）、北京日本語学研究センター編「中日対訳コーパス」（2003 年）。出典明記のないものは筆者による作例。用例の日本語、中国語訳については複数のチェックを受けている。